

2年連続 保育料大幅値上げ

『母になるなら、流山市。』…都内の主要駅に張り出された流山市を宣伝するポスター。「移住先は、柏とどっちにしようか迷った。こんなポスター掲げるぐらいだから、子育てにやさしいと思って流山を選択した」と話す若いママもいる中で、2年連続の保育料値上げとは?!

所得に応じた『優しい』保育料の崩壊

子育て中の世帯は、勤務状況や会社での役職等もあり、所得の格差が大きい。その結果、『保育に欠ける』ことを前提に、幼少時期の子どもへの保育が自治体に義務付けられている(児童福祉法24条)保育園は、幼稚園とは異なり、保護者の所得に応じて保育料を設定する仕組みです。

国では7段階とされていますが、流山市では、保護者の運動にくわえ、秋元元市長、眉山前市長時代の方針もあり、28段階を維持し、当時の担当部長も「きめ細かな配慮をし、低い所得階層への目配りも十分しております」(16年3月議会)と胸を張っていました。

しかし、井崎市政に変わり、16年度2400万円の値上げを皮切りに、段階の圧縮(28↓23↓21)、27年度は年少扶養控除の廃止による影響を考慮しない保育料算定方法の導入と保育料の負担増を進めてきました。

今度は、総額約9千万円もの値上げ素案を、昨年末、子ども子育て会議に報告。一気に11段階へ大幅に圧縮する計画です。これは、「保育料は、子育て支援に配慮し、国の徴収基準額の約70%に設定」というこれまでの姿勢までも投げ捨て、国基準80%という大幅負担増に道を開くものです。

値上げの理由は市長自ら招いたことでは?

そもそも、なぜ値上げするのでしようか。理由は「保育所関係事業費は、H17年度と27年度を比較すると4.5倍となり、31年度には7.5倍になると見込まれる」から。保育需要の拡大は、市長が『夫婦共働きで子育て世代』にターゲットを絞って市内への誘致

したからではないでしょうか。しかも、昨年12月議会では、人口増、税収増だけを見て「都市間競争に勝っている」と市長自ら自慢していたことではありませんか。『キャッチコピーは過大広告』と市民の思われるような市政では信頼されません。



流山市議

小田桐たかし

保育料

値上げに大義なし 他市との格差さらに…

右表は、子ども子育て会議に提出された資料に、千葉県保育問題協議会が行った調査結果（2015年）を加筆したもので、私立保育園運営費に関する財源内訳の比較（現時点）です。

流山市は現在でも、近隣他市より保護者負担が重く、柏市とは割合で10%、子ども一人当たりでは年間18万円も市の負担が少ないのです。

一方、市負担の割合は、松戸市

と並び最低水準。1人当たりの金額の差は、松戸市より流山市は、私立保育園への依存度が高く、公立保育所への負担も少ないことを意味します。

甘い言葉で、子育て世代を誘致しながら、安あがり保育で保護者の負担もガッポリ求め、更に負担増を強いる大義は何もありません。

他市との格差がさらに拡大するような施策では、誘致された市民はどう思うのでしょうか。

